

欧州市場戦略が始動

ポルトガルに合弁会社設立 ワイヤーハーネス現地生産へ

矢崎は、自動車メーカーの世界戦略に際して、原材料調達から組立生産を含めた日・米・欧をむすぶ世界トライアングル三極構造戦略を進めている。その欧州戦略の一環として本年4月、スペインのモネル社にワイヤーハーネスの技術供与・資本参加をめぐって7月、ポルトガルに現地資本と合弁で新会社「ヤザキ・サルターノ・ポルトガル自動車電気部品有限公司」を設立した。これによつて、海外関係会社は八カ国・十社となったが、さらに、欧州を統轄する欧州本社設立の計画もあり、年内にはその設置場所が決定される予定。欧州本社が設立されると、すでに設置してある米国本社とあわせて日・米・欧の国際分業体制の骨格が、いよいよ確立されることになる。

矢崎は八月からポルトガル三極をむすぶ世界トライアングル戦略にもとづくもの、現地資本と合弁で新会社「ヤザキ・サルターノ・ポルトガル自動車電気部品有限公司」を設立し、ワイヤーハーネスの欧州戦略の一環として、矢崎では、さきさき61年4月、スペインのモネル社にワイヤーハーネスの技術供与を行ったのにつづく欧州進出の第二弾三億五千万円、出資比率は矢崎六〇割、現地の投資管理会社であるサルターノ社（資本金一億エスクード、S・F・カエターノ社長、本社ピラ・デ・テ・ガイア市）が四〇割となっている。



現地生産は、EC（欧州共同体）域内のカーメーカーへの納入がねらいである。新会社は「ヤザキ・サルターノ・ポルトガル自動車電気部品有限公司」で、資本金は三億五千万円、邦価換算約三億五千万円、出資比率は矢崎六〇割、現地の投資管理会社であるサルターノ社（資本金一億エスクード、S・F・カエターノ社長、本社ピラ・デ・テ・ガイア市）が四〇割となっている。

本社は工場はポルトガル第二の都市、ポルトの南に隣接するピラ・ノバ・デ・ガイア市。当社はレンタルの工場建屋を利用して、生産設備を日本から送り込み、従業員を育

成したのち来年3月から本格稼働に入る予定。新工場の生産能力は初年度二万四千台分年産、五年後には五万台分年産のワイヤーハーネスを生産する。従業員も当初五〇名からスタートし、五年後には二千名を予定している。

矢崎としてはポルトガル、スペインの二つの生産拠点を軸に、EC域内に進出する日本カーメーカーおよび欧州の各カーメーカーへの納入売込みにも全力をあげる方針。ポルトガルは本年1月、スペインと共にEC加盟を正式認められており、温暖な風土、豊富で優秀な労働力と安

い労働コストで知られ、日本との関係も南蛮貿易、種が島以来の友好的な関係にある。「ヤザキ・サルターノ・ポルトガル自動車電気部品有限公司」の概要。本社は工場、ピラ・ノバ・デ・ガイア市。資本金、三億五千万円（三億エスクード）。設立、一九八六年七月三〇日。

役員 代表取締役社長・志部守夫（矢崎総業取締役 欧州チーフ・リマー） 取締役工場長・豊田進（矢崎部品製津工場製造部長、欧州チーム専門部長） 出資構成 矢崎六〇割、サルターノ四〇割 従業員 当初五一〇名（うち日本人八名）二部制敷地 五七二五平方メートル（設備投資額、当初一〇億円）建物 当初四二〇〇平方メートル（現地で調印式席上にて） 矢崎社長挨拶 親愛なるポルトガルの皆様、政府、FII（外国投資院）、自治体、金融機関、プレス関係、地元の皆様、ならびに日本大使館はじめ日系の皆様、本日はご多忙の中にご出席賜り、心から感謝申し上げます。

この会場の名前のSOLA R（ポルトガル語でソラー）は、太陽熱利用のことを意味し、ソラーシステムは私共矢崎グループの重要な新事業であり、有意義に思っております。ポルトガルの中心、ポルト・シエラント・ホテルにも使われております。

さて、私共の新会社はFIIの一ご指導の下に、いよいよ当地で新しく船出をすることができました。しかしながら企業を船に例えるならば、ポルトガル政府をはじめ地域の

皆様は海の関係にあります。企業という船は、海である皆様の信頼を得られなければ目的の岸に到達することはいけません。海は平穏でなければなりません。

次に、私共の目的の岸は、自動車部品、特にワイヤーハーネスをお客様に供給することでありませぬ。今、自動車業界は世界戦略で動いていく。私共もトライアングル戦略として、北米、日本をはじめとするアジア、ならびにヨーロッパに供給の拠点を設けつつあります。

世界の自動車メーカーが必要とする部品を、必要とされる品質、納期、価格で輸出し、納入することが私共の使命と考へます。したがって、このQ・C・Dを確保するためにワイヤーハーネスのアップグレードだけでなく、次のステージでは、パーツ、コンポーネントもポルトガルで作りたいと考へております。このためには、材料の輸出入を含め、法律、制度等のご支援も是非仰がなくてはなりません。特に新会社は、製品の大半をヨーロッパに輸出しますが成功すれば、北米あるいは世界に供給することも不可能ではありません。

失敬したのは、何れもヒューマン・エラーが原因です。私共は、相手を思いやる心、人の心を大切にす精神で推進します。

何卒、皆様の暖かいご支援を賜りますよう、心からお願ひ申し上げます。

私共の事業がきっかけにならず、ポルトガルと日本がますます親交を深めるよう祈念します。皆様の幸福を……。

ワイラ・ノヴァ・デ・ガイア市に誕生した「ヤザキ・サルターノ・ポルトガル自動車部品有限公司」の全景

外国投資院およびサルターノ社と正式調印を行う矢崎社長

現地の報道記者から質問を受ける矢崎社長とカエターノ社長